

いわての“大地”と “ひと”と共に



国立大学法人 岩手大学
地域連携推進部
地域創生推進課

〒020-8551
岩手県盛岡市上田四丁目 3-5
TEL.019-621-6629
FAX.019-621-6656
E-mail. sanriku@iwate-u.ac.jp

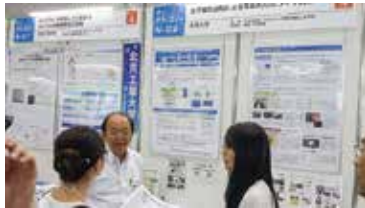
平成 29 年 9 月 29 日発行

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/newsletter.shtml> <岩手大学ホームページからもご覧いただけます。>

date
8.31~
9.1

イノベーション・ジャパン ～大学見本市&ビジネスマッチング～

国内最大規模の産学マッチングイベントである「イノベーション・ジャパン2017～大学見本市&ビジネスマッチング～」が8月31日～9月1日の両日、東京ビッグサイトで開催されました。14回目の開催となる本年は、新たに大型共同研究に向けた「大学組織展示」が加わり、全国から500を超える大学、ベンチャー・中小企業等が出展しました。



シーズ展示の様子

出展に際してはJST(科学技術振興機構)の審査があり、今回は学内から申請のあった研究シーズの中から、大学等シーズ展示に、理工学部 平原英俊教授の「分子接合技術による革新的ものづくり製造技術」が採択され、大学としても組織展示ブースに出展する運びとなりました。



技術紹介のプレゼンを行う平原教授

平原教授の研究シーズは3年連続の出展となります。今回はJSTショートプレゼンと大

学組織展示プレゼンにおいて、分子接合技術、さらには現在実施中の内閣府SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)事業のPRをする機会にも恵まれ、会場は聴講者で満席となり、その関心の高さをうかがわせました。

大学組織展示では岩手大学発ベンチャー情報や現在整備中の地域科学技術実証拠点整備事業の概要等を展示し、岩手大学の産学連携活動のPRを行いました。

2日間で約180社、延べ550名の企業関係者等が岩手大学の2つのブースを訪れるとともに、説明者である三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門専任教員や平原研究室の研究員・学生と研究の内容について、熱心に意見交換をする光景が見られました。

今年のイノベーション・ジャパンの総入場者数は2日間で25,703名とされており、一度に多くの企業に大学シーズを対面で説明する場として貴重なイベントです。今年も昨年同様、展示会後に企業からの個別面談の問い合わせが相次いでおり、9月上旬時点で既に10数社からのコンタクトを受け、昨年以上の手ごたえを感じております。

今後も継続的に出展するために地域創生部門でサポートし、共同研究をさらに推進させていきます。

※研究シーズとは、研究開発を推進していく上で必要となる発明(技術)や能力、人材、設備などのこと。

date
8.26

岩手県総合防災訓練

三陸復興部門被災動物支援班は、岩手県総合防災訓練(8月26日(土))に参加しました。

この防災訓練は、岩手県や盛岡市などの関係自治体が主催。昨年発生した熊本地震や台風第10号などによる大規模災害の教訓を生かし、地震による建物損壊、台風による河川氾濫等を想定するとともに、「減災」の考えを基本に、「自助」、「共助」、「公助」のそれぞれの災害対応力の強化を図ることを目的に実施したものです。

訓練当日、被災動物支援班は、一般社団法人岩手県獣医師会、岩手県、また県内の動物愛護団体等と連携し、動物救護班として活動しました。



防災訓練の会場となった見前南小学校の児童も見学しました。



訓練では、飼養相談や健康相談も行いました。

ペットと一緒に生活している方々には東日本大震災発災時、ペットと一緒に避難所に入れない、ペットとはぐれたなど、色々な問題が発生しました。

今回の防災訓練では、飼養相談、健康相談のブースを設けるとともに、三陸地域で活動している移動検診車「ワンにゃん号」も公開し、家族の一員であるペットと一緒に行動する避難訓練の重要性を訴えました。

また、避難訓練に参加した一般の方々にワンにゃん号の中の手術室なども公開し、被災動物支援班がこれまで三陸地域で行ってきた取り組みも紹介しました。



ワンにゃん号見学。車内の手術室にびっくり。



ペットも一緒に避難訓練に参加しました。

date
7.18~
8.10

平成29年度 社会教育主事講習開催

平成29年7月18日(火)～8月10日(木)の1ヶ月間にかけて北東北3県を対象にした社会教育主事講習が岩手大学で開講されました。今年度の講習には岩手県(18名)、青森県(11名)、秋田県(11名)から受講申請があり、計40名が受講されました。

社会教育主事講習は、専門的職員として社会教育を行う者に対する助言や指導に当たる役割を担う社会教育主事の養成を目的に、文部科学省が各地方大学に委託する形で行われています。なお、北東北は岩手大学、弘前大学、秋田大学の3大学が持ち回りで実施しており、平成29・30年度は岩手大学が担当します。講習では生涯学習概論、社会教育計画、社会教育演習、社会教育特講の4科目を開講し、生涯学習関連の基礎知識を始め、社会教育主事の職務の遂行に必要な専門的知識、技能を習得させ、修了者には社会教育主事となりうる資格を付与します。

★社会教育主事とは

社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育(生涯学習・生涯教育)を行う者に対する専門的技術的助言・指導に当たる役割を担います。具体的には、「社会教育事業の企画・立案・実施」「社会教育施設が主

催する事業に対する指導・助言」「社会教育関係団体の活動に対する助言・指導」「社会教育行政職員等に対する研修事業の企画・実施」など、その業務は多岐にわたっています。

○講義内容

講習では岩手大学の教員をはじめ、東北の生涯学習・生涯教育を専門とする研究者、地域で社会的課題に取り組んでいる実践家をお招きし、社会教育の歴史、少子・高齢化、震災復興、貧困問題、まちづくり、文化財への理解など多岐にわたる内容を取り入れており、講義は座学やワークショップの形式で行いました。(詳細は日程表をご参照ください。)



開講式で挨拶をする岩刈学長



社会教育演習の風景



成果報告会の様子

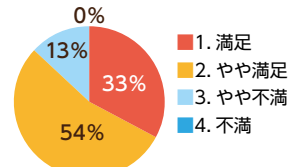
平成29年度 社会教育主事講習日程表

会場	期日	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	18:30～20:00
青少年立岩手山家	7月18日(火)		12:00～受付	13:10～13:40 開講式 13:45～14:30 コエンション	社会教育と生涯学習 岩手大学 准教授 朴 賢淑(生涯学習概論①)	社会教育演習① 新妻・浅沼・朴・長谷川 初日のみ16:30～18:00
	7月19日(水)	社会教育と市民活動 岩手大学 准教授 朴 賢淑(生涯学習概論①)	岩手県の生涯学習振興と課題 岩手県生涯学習振興会 会長 中村 利之(社会教育特講①)		社会教育演習② 新妻・浅沼・朴	社会教育演習③ 新妻・浅沼・朴
	7月20日(木)	地域国際化と社会教育 岩手大学 准教授 朴 賢淑(社会教育特講②)	生涯学習と企業連携 岩手大学 教授 今井 潤(社会教育特講③)		生涯学習と地域スポーツ 岩手大学 教授 浅沼 達成(生涯学習概論②)	社会教育演習④ 新妻・浅沼・朴
	7月21日(金)	社会教育対象者の理解 岩手大学 准教授 朴 賢淑(社会教育計画①)	社会教育演習⑤ 朴・浅沼	高齢化と社会教育(社会教育特講④) 八幡平市企画財政課 関 貴之 オークフィールド八幡平 山下 直基	社会教育演習⑥ 浅沼・朴	
岩手大学図書館 生涯学習・多目的学習室	7月24日(月)	社会教育と市民活動 岩手大学 准教授 朴 賢淑(社会教育特講⑤)	社会教育演習⑦ 新妻・浅沼・朴	13:10～14:40 社会教育事業計画 東北大学 教授 高橋 浩(社会教育計画②)	14:50～16:20 社会教育演習⑧ 浅沼・朴	16:30～18:00 社会教育調査の理論と方法 I 岩手大学 教授 竹村 祥子(社会教育計画③)
	7月25日(火)	国際理解教育と生涯学習 岩手大学 准教授 塚中 夏夏(社会教育特講⑥)		学校外教育論 弘前大学 講師 深作 拓郎(生涯学習概論③)		社会教育調査の理論と方法 II 岩手大学 准教授 小野澤 寛子(社会教育計画④)
	7月26日(水)	地域農業の問題と社会教育 岩手大学 教授 佐藤 和康(社会教育特講⑦)	高等教育と生涯学習 東北大学 助教 清水 植文(生涯学習概論④)		社会教育演習⑨ 浅沼・朴	新妻・浅沼・朴
	7月27日(木)	社会教育演習⑩ 浅沼・朴	社会教育演習⑪ 浅沼・朴	生涯学習社会における学力 東北大学 講師 田中 光晴(社会教育特講⑧)		生涯学習とメンタルトレーニング 岩手大学 准教授 長谷川 弓子(社会教育特講⑨)
	7月28日(金)	地域社会教育計画 I 岩手大学 客員教授 新妻 二男(社会教育計画⑤)		地元学と社会教育 岩手大学 教授 廣田 純一(生涯学習概論⑤)		社会教育演習⑫ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	7月31日(月)	社会福祉と社会教育 大阪府教育委員会 スカールソーシャルワーカー 上原 裕介(社会教育計画⑥)				
	8月1日(火)	文化財の理解と生涯学習 岩手大学 教授 敷 敏裕(社会教育特講⑩)	生涯学習とまちづくり 岩手大学 准教授 植田 俊之(社会教育特講⑪)	地域社会教育計画 II 弘前大学 准教授 松本 大(社会教育計画⑦)		社会教育演習⑬ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月2日(水)	社会教育演習⑬ 浅沼・朴	地域復興と行政の役割 釜石市産業振興部企業立地課 主任 井上 諭宜(社会教育特講⑫)	震災復興と地域づくり 岩手大学 教授 五味 壮平(社会教育特講⑬)	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑮ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月3日(木)	社会教育施設として「美術館」 岩手大学 教授 薬谷 取(生涯学習概論⑥)	社会教育演習⑯ 浅沼・長谷川・朴	生涯学習と社会教育施設 青森県立保健大学 講師 原森 直子(生涯学習概論⑦)	社会教育演習⑰ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑱ 新妻・浅沼・朴
	8月4日(金)	社会教育演習⑱ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴
	8月7日(月)	震災復興とコミュニティ作りへの取り組み 岩手大学 特任研究員 船戸 善和(社会教育特講⑭)	生涯学習と教育制度 東北大学 准教授 後藤 武敏(社会教育特講⑮)		生涯学習と地域連携 岩手県立大学 准教授 渡部 芳栄(社会教育特講⑯)	社会教育演習⑳ 朴
	8月8日(火)	貧困問題と子ども支援 特定非営利活動法人インクルいわて 理事長 山屋 理恵(社会教育特講⑰)		社会教育演習㉑ 朴	社会教育演習㉒ 朴	社会教育演習㉓ 朴
	8月9日(水)	社会教育演習㉓ 新妻・朴	社会教育演習㉔ 新妻・朴	生涯学習と人間形成 秋田大学 准教授 小池 孝範(生涯学習概論⑧)		社会教育演習㉕ 新妻・浅沼・朴
	8月10日(木)	社会教育演習㉕ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習㉖ 新妻・浅沼・朴	13:00～開講式		

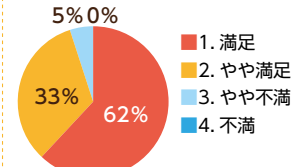
★今後に向けて

社会教育主事講習終了後に行ったアンケート調査結果からも分かるように、講習会全体については概ね満足でありました(詳細は年度末発行予定の生涯学習部門成果報告書を参照)。講義内容、運営等については満足度が高く占めておりましたが、宿泊会場についての環境づくりにおいては課題として指摘されました。残された課題については、今後、実行委員会で検討をとおして質的改善を目指したいと思います。

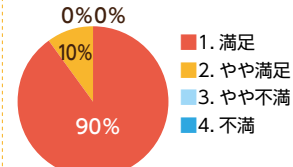
●科目の流れについて



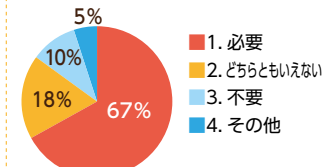
●演習のテーマ設定について



●講習の運営スタッフの補助について



●宿泊研修について



生涯学習部門長から


 三陸復興・地域創生推進機構
 生涯学習部門 部門長 朴 賢淑

今年度の社会教育主事講習の開催にあたっては、学内・外の先生方および、地域連携・COC推進課、北東北3県の教育委員会のみなさまには、多大なるご支援ご協力を頂きながら長期にわたる講習会を無事に終えることができましたこと、心から御礼を申し上げます。

当講習会は、平成28年度に発足した「三陸復興・地域創生推進機

構(生涯学習部門)」が主催しており、カリキュラムの企画、運営、マネジメントなどを行っておりますが、当機構としても初めての試みでありました。半年間の準備期間を経て開催いたしました講習会には予想を超える受講者が集まり、それぞれの地域で抱えている地域課題・学習課題を議論しながら資料収集および地域調査に取り組んでおり、その成果を報告書としてまとめることができました。短い期間でありながら、また、仕事を抱えながら講習へ参加いただきました受講生のみなさま、本当にお疲れ様でした。今後のみなさんのご活躍をお祈り申し上げます。

参加者の声

●長い長いと思っていた90分の講義や、18日間も、振り返るとあっという間ではありませんが、とても充実した日々でした。この研修では、昼も夜も、普段の職場では会えない方々との出会いがあり、普段聞けない様々な話を聞くことができました。これは自分にとって大きな楽しみであり、何よりの一番の成果であり財産です。「インプットしたからにはアウトプット!」をこれからの目標に、がんばります。

岩手県 佐々木 さん



最終日集合写真

●以前より関心のあった社会教育主事の講習について、今回機会をいただき受講しました。講義を通じて社会教育の基礎的知識の理解の他、震災復興関連、障がい者における生涯学習、貧困問題と子ども支援といった、気になっていた地域的・現代的課題について多くの知見を得ることができました。また、演習において指導いただいた朴先生と同じ班の方々に大変お世話になりました。皆さんに助けていただいた演習活動は期間中で最も意義深く、貴重な経験でした。最後に運営委員会事務局の皆様、関係者の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

秋田県 武石 さん

●4週間の講習を通して、社会教育主事は人と人をつなぐパイプであること、時代の経過とともに社会教育・生涯学習の必要性は増してきていること、そして何より人間関係が広い方が人生を楽しく送れることを学びました。まさかの、講習中に生まれた子どものためにも、すべての世代が暮らしやすいと感じる町を町民全員で作っていききたいと思いました。ありがとうございました。

青森県 小向 さん

date
8.8,10

釜石市立大平中学校での夏期学習支援ボランティア活動

学習支援班は、今年の冬休みに引き続き、夏休みの8月8日、10日の2日間、釜石市立大平中学校にて学習支援ボランティア活動を行いました。桐の葉学習会と名づけられたこの取り組みは、学習支援を通じて学力向上及び学習意欲の向上を図ること、大学生との交流により中学生に高等教育機関に興味・関心を持ってもらうことを目的としています。

初日は最初に開講式が行われ、大学生の自己紹介に続いて、大平中学校から大平ソーラン実行委員会による大平ソーランが披露されました。学習会では事前申込者の他、当日参加の生徒もあり、3年生の部屋と1・2年生の部屋2か所に分かれて学習会が行われました。半年後に高校受験を控えている3年生の部屋はマンツーマンに近い形で、1・2年生の部屋ではグループ学習によって勉強をすることで、中学生それぞれのニーズに合わせました。最初は大学生、中学生ともに緊張している様子でしたが、休み時間の日常会話、昼食を共にしてからは打ち解けた様子でした。

2日目も初日と同様の形式で学習会に取り組み、学習の合間に体育館でバスケットボールを行うことでさらに交流を深めました。両日共に大雨でコンディションが良いとは言え



開講式に披露された大平ソーランの様子



桐の葉学習会の様子



閉講式での記念撮影

ない中、延べ88名の中学生、27名の大学生の参加があり盛況でした。

中学生からは、「初めて大学生と関わって大学進学に興味をもった」、「勉強以外にも学ぶことがたくさんあった」、大学生からは「教員を目指しているので将来に向けて実践的な活動ができた」、「教える立場で来たのに教えられることもたくさんあり、とても充実した2日間だった」などの感想が寄せられ、相互に有益なボランティア活動になりました。



釜石市立大平中学校 副校長 千葉 美紀 さん

昨年の冬にスタートした学習会。岩手大学のシンボルにちなんで『桐の葉学習会』と名づけたこの会を、この夏休みにも行っていただきありがとうございます。学習だけではなく、一緒に昼食をとりスポーツ交流をすることで、生徒達は充実した2日間を過ごすことができました。

さて、先日生徒達から感想を聞いたところ、「とてもわかりやすかった」「冬も参加します」「次はもっと日数を増やしてください」という声がたくさんあがりました。それは、理解するのに時間がかかる生徒に対しても、根気強く、丁寧に教えてくださったみなさんのおかげだと思います。

また、大学生活の様子を聞くことで進路について考えるきっかけになるなど、たくさんの副産物も得られました。

あふれるエネルギーと魅力が大平中学生に注ぎ、学習に最も必要な『学習意欲』を伸ばしてくれた若桐達に感謝します。ありがとう。

date
8.8

釜石市立唐丹小学校学校開放事業におけるボランティア活動

三陸復興部門学習支援班は、釜石市立唐丹小学校が夏・冬期長期休業期間に取り組んでいる学校開放事業に平成25年度から毎年協力しています。

児童たちは今年度から新校舎で学んでいるとはいえ、グラウンドやプールなどは整備途中で、体を動かしたり遊んだりする場所は現在も制限されています。

このため、唐丹小学校では、学校開放事業として夏・冬期長期休業期間における児童の体作りを目的に体育館を開放しています。

ボランティア当日の8月8日は、台風5号の影響で決してコンディションが良いとは言えない状況でしたが、唐丹小学校の児童20数名が元気に参加し、学生と一緒に、縄跳び、バドミントン、ドッジボールなど、仲良く体を動かしました。学生からバスケのシュートの打ち方を教わる子、ドッジボールで学生めがけて元気にボールを投げる子など、好きなスポーツで体いっぱい汗をかきました。

最後に児童から、「縄跳びやドッジボールなど、学生のお兄さんやお姉さんと一緒に遊んでもらえて楽しかったです」、「雨の中、盛岡から長い

時間をかけ会いに来てくれてありがとうございます」などの感謝の言葉をいただき、参加した学生たちは、これに笑顔で答えました。

帰りの振り返りの時間では参加した学生から、「教員を目指しているので今回の体験は非常に有意義だった。今後活かしていきたい」、「子供たちと触れ合え、こちらのほうがパワーをもらった」、「冬休みの学校開放事業にも参加し、唐丹小の子供たちと一緒にスポーツしたい」、「現在、教員採用試験を受験中、今回の体験でモチベーションが上がった」などの感想が寄せられました。

今回の取り組みは唐丹小学校の児童と参加した学生にとっても、貴重な体験となりました。



シュートのコツを教える学生



最後にみんな揃って笑顔で記念写真

地域防災教育研究部門紹介

地域防災教育研究部門を担う岩手大学地域防災研究センターは、地域防災や東日本大震災からの復興に資する研究・教育を進めています。

津波、火山、地震、洪水など、災害は発生から復旧・復興まで、場に依存する性質を有しており、岩手や東北という地域特性に根差した防災研究・教育に取り組んでいます。身近なフィールドとの長期的な関わりを大切に、地域の防災上の課題を抽出しながらその改善に向けてアプローチしている教員が多数所属しています。東日本大震災以後、当センターの自然災害解析、防災まちづくり、災害文化からなる3部門に所属する教員は、被災地域に入り、被災状況調査、地震・津波などの解析、復旧・復興まちづくりの支援、教育研究活動支援や伝承・記録の支援等を地域の人々とともに実践しています。

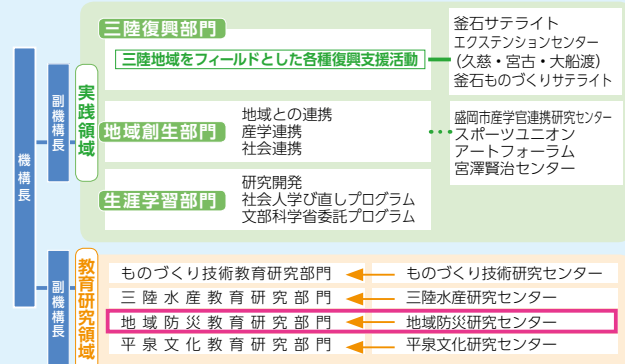
岩手の地域防災研究の拠点であること、岩手三陸をはじめとする被災地の復興に資するプラットフォームになることが、地域防災研究センターの使命にほかなりません。

東日本大震災からの復興への取り組みを加速すべく地域と共に研究・教育を進めること、さらには阪神淡路大震災、中越地震などの震災・復興の体験を持つ国内外の大学、また南海トラフ等の今後の震災が危惧されている地域の大学との連携を深め、過去・現在・未来を貫く相互の学びの場の創出へとつなげることが当面の課題です。

●事業目的

- ①三陸沿岸での安全・安心な地域づくり
- ②災害文化の醸成・実践・継承
- ③三陸モデルの発信

●三陸復興・地域創生推進機構組織図



共同研究員 だより

盛岡市共同研究員
金澤 健介



盛岡市は、産学官連携の実践的研究をテーマとして、平成19年度から共同研究員を岩手大学に派遣しています。主な担当業務は、大学と市内企業との連携推進です。また、連携を推進することにより、持続可能な産業振興や地域創生に向けた方策の検討も行っています。共同研究員は、市役所では商工観光部ものづくり推進課立地創業支援室に所属していますが、大学では市役所の事務分掌に関わらず、様々な案件に関わっています。

現在は、林業・木材産業やクリエイティブ産業を中心に、連携を推進しているところですが、ここでは、今年4月の着任以降に成果が出た取り組みの一つとして、「食品パッケージデザインとその展開に係る連携」を紹介します。

減塩対策醤油「いわて健民」のパッケージデザインについて、大学と連携したいとの依頼が株式会社 浅沼醤油店からありました。この製品は、通常の醤油と変わらない味で、体内に蓄積される塩分が従来の約1/2に抑えら

れる設計のもので、味の評価について、農学部三浦靖教授の指導のもと、食品工学を学ぶ学生が関わっています。そこで、人文社会科学部の田中隆充教授にコーディネートし、「産学官連携の成果物であることをイメージさせるデザイン」というコンセプトで、インダストリアルデザインを学ぶ学生が、辞書を思わせるデザインに仕上げました。そこから「本屋で売れる醤油」というコンセプトが新たに生まれ、株式会社 さわや書店に協力いただくこととなりました。現在、この製品は、さわや書店各店で販売されており、好評いただいております。

この製品のパッケージデザインから販売までの経緯は、先のとおりですが、このプロジェクトはまだ終わっていません。更なる販路拡大や、次の製品展開に向けて、現在もなお遊び心を持った大人たちの打合せは続いています。続報にご期待ください！



辞書を思わせるデザインの「減塩新書 いわて健民」(減塩対策醤油)



遊び心を持った大人たちの打合せ